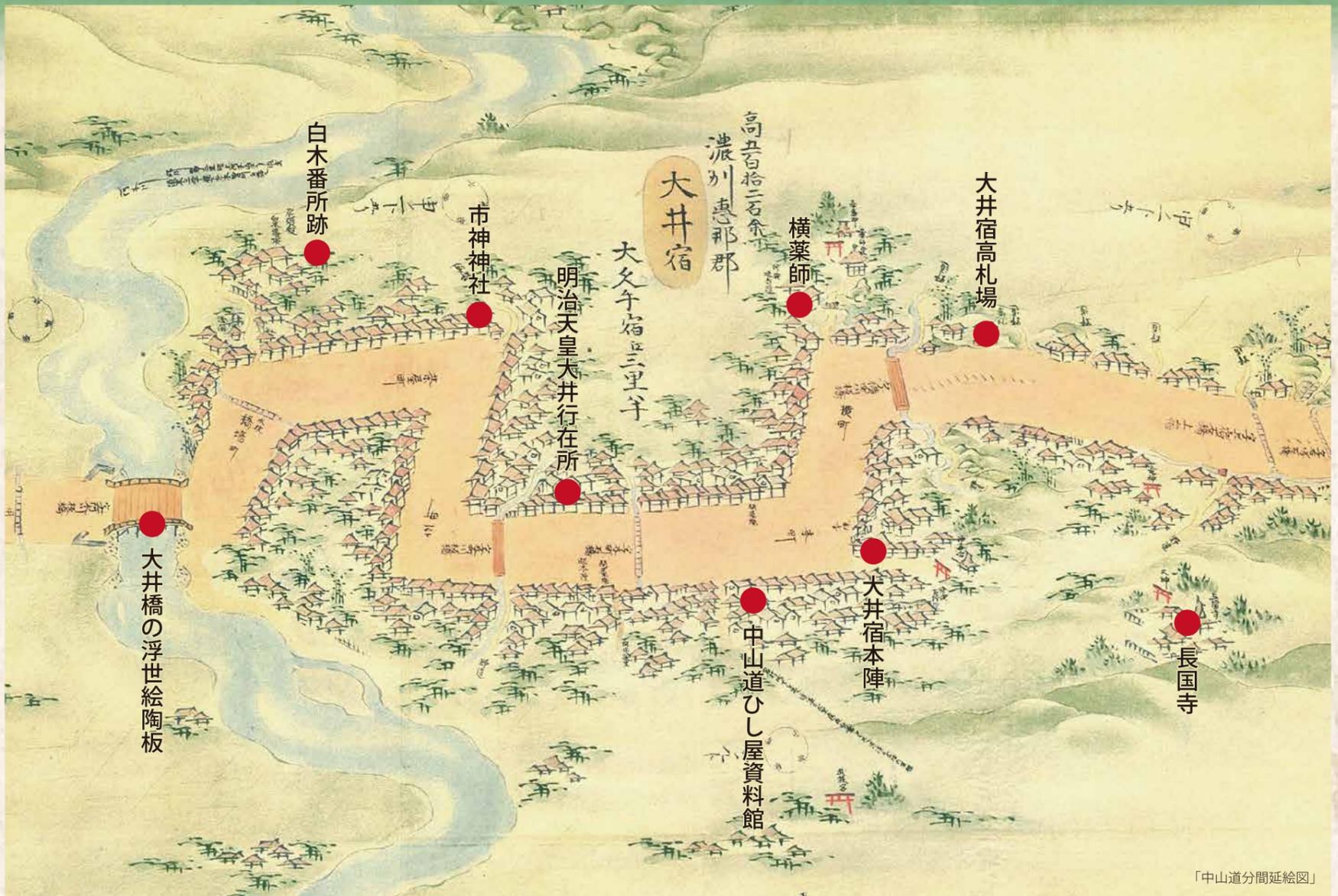


中山道大井宿



「中山道分間延絵図」

「木曾路(馬籠)から美濃路16宿」

江戸日本橋から京都三条大橋まで67次(69次とされる場合もあり)幕末距離は約129里(508km)。この中山道の4分の1相当(約127km)が美濃国、つまり岐阜県です。16の宿場を持つ美濃中山道は山間を通る過程で、木々や溪谷に四季折々の自然の美しさがある街道です。



「信州と名古屋をつなぐ繁華の宿場町」

大井宿は、江戸日本橋から数えて87里ほどにある46番目の宿場町です。元々この地域は中世の大井城の麓にあり、その関係が特異な道が整備された面白い宿場です。

大井宿の特徴は、6つの柵形を設けて道を曲げています。この理由は、大井川と周囲を丘陵の山に囲まれており、地理的な理由から曲げていること。また、昔の大井城の城下町としての再整備を考え、防衛路として柵形にしたのか、明確な史料はありませんが想像する楽しみが膨らみます。

この大井宿は、宿屋が最繁期には40軒以上もあり、中山道でも屈指の宿場として栄えました。その理由は、西へ向かうと善光寺街道(下街道)の脇街道があり、伊勢から名古屋、信州へ向かう人と江戸、京都間を往来する人が大井宿を必ず通過するため宿場として利用が高かったことがうかがえます。今も、本陣の門や西に向かうと未舗装の地には貴重な一里塚が2基2か所が残っており、沿線史跡も豊富な場所としてみる事ができます。



大井宿本陣



大井高札場



大井橋の浮世絵陶板

